

1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」教育の実践
教育スローガン	「文武両道の心豊かな人間を育む金光大阪」 ・ 文武両道の共学進学校として、地域から一定の評価を受けている現状から、さらに全教職員が組織的な努力を重ね、その評価を一層確固たるものにする。 ・ 日々の教育実践において学習指導、部活動指導を行うに先立ち、生徒指導の充実を図る。その実現のため、教職員は弛まない自己研鑽に努める。

2. 中期的目標

1. 次代を生き抜く確かな学力の育成
(1) 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。
ア. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。
イ. 学習意欲の高い生徒に対して、さらに学力を伸ばす工夫をするとともに、到達度の低い生徒に対して補習等を実施し、日々の授業がわかるものにしていく。
ウ. 授業だけでなく、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養う。
※生徒アンケート教科学習に対する「興味・関心」、「授業理解」、「向上への意欲」の各肯定回答を順次引き上げ、平成 28 年度にはそれぞれ 80%以上にする。
2. 教員の自己研鑽の推進
(1) 各種研修を通して教員としての力量向上を図る。
ア. 校内および関西金光学園法人レベルでの研修や校外研修を通して、教員それぞれの指導力の向上を図る。
※校外教員研修に原則全員の教員が参加し授業力向上に努め、平成 28 年度には生徒アンケート「授業の工夫」「教材の工夫」についての肯定回答を 85%以上にする。
3. 豊かな人間性の育成
(1) 互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。
建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。
ア. 全教員が生徒に対し、いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。
イ. 集団の中での人格形成の場としての部活動、課外活動への積極的な参加をうながす。
※新入生の部活動加入率を 80%以上としそれを維持していく。
4. 基本的生活習慣の確立
(1) 心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。
ア. 「生活習慣力」「時間管理力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせる。
イ. 遅刻をなくし、欠席がちな生徒に対し手厚い指導を行う。
※生徒アンケート「毎日予習復習をしている」生徒を平成 28 年度には 75% (3/4) 以上とする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○教員による自己評価は年1回実施しており、より良い教育を提供できるよう教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すものである。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <p>下記「肯定意見が低かった項目」4項目以外、すべての項目で肯定意見が100%であった。</p> <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対して情報化社会に必要な能力を身に付けさせる指導を行っている。(95.2%) ・文化祭や体育大会などの行事に、生徒が意欲的に取り組めるよう努めている。(97.5%) ・校内外の研修に参加して、授業方法等について検討する機会を持っている。(96.3%) ・教育活動への理解と協力を得るために、学校発信の情報提供を行うと共に、保護者からの疑問や質問に答えている。(98.9%) <p>【分析】</p> <p>教員による自己評価は全27項目中肯定的評価が23項目で100%と高く、各教員は日々真摯に教育活動に取り組んでいると認識している。数年来課題となっていた研修に係わる項目については、96.3%と大きく改善された。</p> <p>○生徒アンケートは年2回実施しており、授業担当者にとって授業を改善するデータとするとともに、生徒自身が授業への取組み方、学習状況を振り返るものである。「前期」のアンケート結果を踏まえた「後期」の集計結果をみると以下の通りであった。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生はわかりやすく話していたか。 中学 90.5% 高1 84.4% 高2 86.6% 高3 94.3% ・生徒の質問には、正しくきちんと回答してくれたか。 中学 90.6% 高1 87.0% 高2 91.0% 高3 95.2% ・先生の授業に対する熱意、意欲を感じましたか。 中学 89.0% 高1 82.8% 高2 86.2% 高3 94.4% <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも予習と復習をきちんとしていたか。 中学 46.2% 高1 41.1% 高2 56.9% 高3 68.3% <p>【分析】</p> <p>教授法、生徒対応については、ほとんどの項目で肯定的な回答を得られた。しかし、自らの授業に対する取組みに関する項目では依然肯定的な回答は低い。どの項目においても、学年をおって肯定的な回答の割合があがっていく傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートのほとんどの項目で、学年をおって肯定的な意見がおおくなっていることから、教師の真剣さが伝わってくる。 ・「研修」について改善されたことは良いことである。子供たちにとって将来の選択肢が多い時代であるので、教師の幅広い視点からの導きをお願いしたい。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 次代を生き抜く確かな学力の育成	<p>学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。</p> <p>ア. 確かな人生観・職業観に基づく学習への興味・関心の醸成。</p> <p>イ. 個々の学習状況に応じた指導の工夫。</p> <p>ウ. 自学自習の習慣の確立。</p>	<p>ア. 進路総合学習のみならず、二者懇談等学校教育活動全般に亘って、自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。</p> <p>イ. 学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばしていく。また、中高とも、到達度の低い生徒に対して補習を行い、日々の授業をわかるものにしていく。</p> <p>ウ. 自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整える。「学習タイム」のさらなる充実を図り自学自習の姿勢を確立する。また、交換留学、模擬国連、TOEFL 対策講座などの新しいプログラムの充実を図り、「使える英語力」の向上に努める。</p>	<p>ア. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全科目平均 75%以上。 (平成 27 年度 70%)</p> <p>イ. 生徒アンケート「授業の理解」に関する項目の肯定回答が全科目平均 80%以上。 (平成 27 年度 78%)</p> <p>ウ. 生徒アンケート「向上への意欲」項目の肯定回答 70%以上。 (平成 27 年度 61%)</p>	<p>ア. 興味・関心については昨年と同様 70%であったが、高校 3 年生では 85%と目標値を達成できた。各科目の興味関心を高めることは学力の 3 要素の一つ「主体的に学習に取り組む態度」を養うために重要であり、全学年を通してさらなる向上が課題である。(○)</p> <p>イ. 授業の理解に関しては全科目の平均が 80%と目標値を達成できた。今後も生徒の学習状況に応じた指導を継続し、個々の能力に応じた進路指導に努めていきたい。(○)</p> <p>ウ. 向上への意欲は 61%で昨年と同値であった。学習内容をさらに深めたいという知的欲求にまで高めるのはたやすいことではないが、ALや探求型授業などの研究を行っていきたい。(△)</p>
2. 教員の自己研鑽の推進	<p>各種研修を通して教員としての力量向上を図る。</p> <p>ア. 指導力向上のための研修開催。</p> <p>イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。</p>	<p>ア. 校内および関西金光学園法人レベルでの研修を年 2 回以上開催し、学園方針に沿った、教員の指導力向上を図る。</p> <p>イ. 校内研修の充実を図り、互いの教授法についての研鑽に努める。また、校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行うことで、授業力の向上を目指す。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ 85%以上。 (平成 27 年度 84%, 86%, 86%)</p> <p>イ. 全教科において研究授業を実施。 教科教授法に関する校外研修への参加数、延べ 50 人以上。 (平成 27 年度 44 人)</p>	<p>ア. 授業の工夫 88%, 話し方の良否 90%, 教材の工夫 90%とすべての項目で高い値で目標を達成できた。次年度もこの値を維持できるよう努めていきたい。学園レベルでの研修も新任研修と中堅教員対象研修の 2 回を開催。教員の力量を高める有意義な研修が持てた。(◎)</p> <p>イ. 国社数理英の 5 教科で研究授業を実施したが、公開授業の域をでないものであった。次年度は「ねらい」を明確にし、よりレベルの高い研究授業にしていきたい。また、校外研修への参加数延 45 人と、ほぼ目標値を達成できた。(○)</p>

<p>3. 豊かな人間性の育成</p>	<p>互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。</p> <p>ア. 人権意識の向上に向けた指導体制の整備</p> <p>イ. 部活動を通じての人格形成</p>	<p>建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。</p> <p>ア. 年度初めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。人権教育推進委員会やいじめ防止対策推進委員会を定期的に開催し、生徒にいじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。</p> <p>イ. 部活動の教育的意義について、教師間で共通認識をもち、新入生へ積極的な参加を促す。そのために部活動紹介の充実や、仮入部期間を設定など、新入生が部活動に参加しやすいプログラムを再検討する。</p>	<p>ア. 「教師への相談のしやすさ」についての肯定回答 80%以上 (平成 27 年度 79%)</p> <p>イ. 新入生部活動加入率 80%以上 (平成 27 年度 79%)</p>	<p>ア. いじめ問題、差別問題についてはその防止に努めることは勿論、事案が起きたときに、迅速に組織的に対応することが重要である。そのためにも、普段より生徒がどんな些細なことでも教師に相談できる環境が大切である。今回「教師への相談のしやすさ」が 82%と目標値を達成することができた。今後も維持していきたい。(○)</p> <p>イ. 新入生の部活動加入率は 76%と、昨年度より下がり目標値を達成できなかった。新入生の入部については、ある程度は年毎の雰囲気左右される部分があるが、コンスタントに 80%以上の加入率を目指したい。(△)</p>
<p>4. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。</p> <p>ア. 自己管理能力向上にむけた取組</p> <p>イ. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>ア. セルフ手帳を活用し、「生活習慣力」「時間管理能力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせ、日常的に生徒との面談を行い学習状況の点検を行う。</p> <p>イ. 効果をあげている従来の遅刻生徒への指導を徹底。欠席がちな生徒に対し、家庭訪問を含め、早期に家庭との連携、対応を図る。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「予習復習を毎日していた」という回答 60%以上 (平成 27 年度 52%)</p> <p>イ. 遅刻数(通院等を除く)対前年減少率 20%以上。 (平成 27 年度 15%)</p>	<p>ア. 学習習慣に係わる項目「予習復習を毎日していた」割合は 51%で、本年度も目標値を達成できなかった。しかし、僅かずつであるが割合は増加しており、継続的な指導を行っていきたい。(△)</p> <p>イ. 本校の遅刻数は極めて少ない。下げ止まり状態にある減少率の大きな改善が難しい中、今年度減少率は 17%とハードな目標値をほぼ達成できた。(○)</p>